

梶山理事長・学長 入学式 式辞

平成二十五年

福岡女子大学第六四回・大学院第二一回入学式

この荘厳な入学式の静寂の中で、福岡女子大学に合格した皆さんの満足感と達成感を、私は直に感じています。「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」を大学の理念とする福岡女子大学の一員になられた学部学生二四三名、大学院学生九名の皆さんを、心より歓迎致します。ご入学おめでとうございます。また、公務ご多用にもかかわらず、入学式にご臨席賜りました福岡県副知事 服部 誠太郎(まことり せいいたろう)様、福岡県議会議員 今林 久(ひまはやし きゅう)様をはじめ、ご来賓の方々には福岡女子大学を代表し、厚く御礼申し上げます。また、後輩の激励のためアメリカ合衆国より入学式にご出席いただきました、イリノイ大学名誉教授の郡司紀美子先生に深く感謝致します。さらに、本年度の入学式より同窓生の方々にも御出席をお願いしています。本年度は、福岡県立女子専門学校同窓生と福岡女子大学第一回、十回、二十回卒業の方々には、福岡女子大学の入学式へ御参加、いただいております。

本日、学生の皆さんが晴れの入学式に出席しておられるのも、入学試験という過酷な競争を突破された皆さん自身の努力によるのは間違いありませんが、今日まで物心両面から皆さんを温かく支えて、いただきご家族のご恩を忘れてはなりません。また、小学校から今日まで、勉学という面からだけでなく、心の成長も支えて、いただいた学校の先生、楽しいにつけ悲しいにつけ相談相手となってくれた友人達にも、感謝を忘れてはなりません。皆さんは若い故に何事も自分でできると思うのは良いことですが、皆さんの現在の晴れ姿は、周りの多くの方々の経済面、教育面、あるいは精神面からの、計り知れない程の多くの支拂によるものです。

福岡女子大学は、平成二三年四月より従来の教育組織を一新し、国際文理学部に国際教養学科、環境科学科、食・健康学科から構成された一学部三学科の新生福岡女子大学に生まれ変わりました。皆さんは、その第三回生です。国際文理学部の教育の理念や育成すべき学生像については、皆さんは様々な情報手段を通じて既に理解しておられると思います。これから始まる授業、授業時間外教育指導、体験・インターンシップ授業、さらにサークル活動、地域・社会貢献、国際貢献等の教育指導を通じて、福岡女子大学の建学の精神と教育理念を新入生の皆様が理解できるよう、教職員は徹底した指導をしていきます。

ここで、皆さんが入学された福岡女子大学の歴史を説明しましょう。福岡女子大学は、1923年(大正十二年)に福岡県立女子専門学校として設立されました。その伝統は、1950年に県立福岡女子大学に引き継がれ、学部・大学院組織を充実させながら、2006年に「県立福岡女子大学」から「公立大学法人 福岡女子大学」へと変遷してきました。2011年4月より「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」という教育理念に焦点を絞った大学として生まれ変わりました。福岡女子大学は、県立女子専門学校創立以来、九十年となり、日本で最も古い公立女子大学であります。卒業生数は県立女子専門学校の開学以来、一〇九八〇余名におよび、社会的に活躍しておられる多くの人材を輩出してきました。皆さんは、その伝統ある福岡女子大学の一員となったことに誇りを持ち、勉学、研究、地域・社会貢献、国際貢献に励んで下さい。

次に、皆さんがこれから四年間受ける教育についてお話ししましょう。低学年共通教育を中心に、皆さんの創造性を養い、基礎学力が身に付くように、カリキュラムの編成に教職員が日夜、努力しています。少人数教育による日本語・英語コミュニケーション術の向上や自分で課題を見つけ自分で問題を解決する創造型デザイン科目など、教職員の努力により、カリキュラムに色々な仕掛けと工夫がなされています。従来は、大学に入学する前の受験勉強でエネルギーを使い果たし、また、学部低学年教育のカリキュラムに高等学校から大学への導入教育の工夫がないなどの理由から、大学入学早々に勉学の意欲をなくす学生もいました。福岡女子大学では、共通教育機構でこのような問題を検討・解析し、それを解決すべく努力した結果、低学年教育のカリキュラムには、多くの工夫がなされています。福岡女子大学の一年生は、一年間全員寮で生活する全寮制となっています。この制度は、寮は生活の場だけでなく、教育の場でもあるということに基づいたものです。日本人学生は寮で一年間、留学生は四年間、「国際学友寮」でここで共同で生活することとなります。寮が教育の場であるという基本概念が、学生のアルバイトで崩れつつあります。そのため、本年度からウイークデーの一日の夕方からは、全員寮に集まって教育を受ける自己啓発教育日とします。

皆さんが福岡女子大学に入学した目的は何であるか、もう一度入学式というこの日に真剣に考えて下さい。私はまず新入生の皆さんに「勉強をせよ」と言いたいのです。専門を勉強するのは当たり前で、社会や人間を知る勉強をもっとしましい。「学生である前に良い社会人であれ」と私もいつも言っています。一生懸命勉強するのは福岡女子大学の学生である皆さんには、当然のことです。福岡女子大学はアルバイトをしながらのんびり過ごす大学ではありません。もしこのようなことが学生に可能であれば、カリキュラム編成や内容、さらに教育の指導法を、大学として見直す必要があります。皆さんは若い、「鉄は熱いうちに打て」です。先ほど述べました様に、全寮制の寮は住むだけでなく、教育の場としての効果を上げるために、週一度の自己啓発教育日を設けます。皆さんは、福岡女子大学の教育と研究に耐えられる基礎学力と体力を身に付け、また社会人として常識ある行動のとれる学生として、福岡女子大学に合格したわけです。勉強は皆さんが自覚して行うもので、他人から強制されるものではありません。いくら良い教育を受けても、それを理解し、個性ある考え方として展開し、独創性・創造性を身に付ける努力をしなければ、大学教育を受ける意味はありません。

皆さんは、高等学校を卒業して間もない人が多く、柔軟な考え方をもち、また、出会う何事にも新鮮さを感じる感受性の強い年齢です。そのような時期には、他人の意見に耳を傾け、理解し、それを身に付けることができます。そこで本日の入学式に当たり、社会人として、今後、皆さんの行動に重要である、「多様性の許容」について私の意見も含めて述べさせていただきます。

それでも、「多様性の許容」についてお話ししましょう。地球上には、様々な国あるいは地域があり、多種多様な民族、文化、宗教、生活習慣、社会通念あるいは政治・経済体制があることを知り、私達と異なった民族観、政治・経済観や宗教観を持つ集団が存在していることを知ることが、「多様性の許容」の基本です。ちょっと古い話ですが、2001年9月11日に米国で起こった同時多発テロは、民族、宗教、政治観が違うという理由から、また、世界観が違うという理由から、罪のない人を対象にしたテロ行為であり、決して人間として許されるものではありません。多様性を許容することができれば、20世紀に起こった多くの戦争や現在起こっている民族あるいは国家間の争いを、防ぐことができたかもしれません。最近は何ごとにも米国式が多く、自分の意見を徹底的に主張せよと言われてます。自分自身の意見を主張し、他人と討論や意見交換をすることは、自分の存在を知らせ、社会で認めもらうための、非常に重要な手法であることは疑いありません。しかし、自分の意見を他人に対して主張するということは、他人の意見を受け入れるというルールがあって初めて相互理解が生まれるものです。自分の価値判断や基準を他人に押し付けることはマナーやルール違反であり、究極的な結果として、国家間、民族間あるいは異なった宗教・宗派間の争い事になるのです。幸いにも、福岡女子大学の学生になられた皆さんの周りには、全入生数に対して約10%強の正規あるいは非正規の留学生がいます。これから一年間は全寮制ですから、多くの留学生と身近に付き合い、国際的多様性の意味を理解して下さい。学生時代に多くの友人を作ることは、一生の財産になります。外国からの留学生と積極的に関わってください。留学生の皆さんは、私の式辞の中で日本人学生の部分を自分自身と読み替えて、「多様性の許容」を理解して下さい。

皆さんがこれから福岡女子大学で受ける教育は、受け身でかつ他人から強制される勉強であってはなりません。大学教育には、新しい知識の蓄積、新事実の発見、さらに自分の考えを展開できるという期待と感動がありますが、決して易しく、楽しいことばかりではありません。学問、研究は、専門的で深く追求すればする程、苦しさが増してきます。

抵抗なく何事も飛び込んで行き、失敗が許されるのは若い時しかありません。新入生の皆さんは、若者の特権を持てる若い日々があつという間に過ぎることを自覚して、一日一日を有効に、学生生活が実り多く、有意義となる様心掛けて下さい。福岡女子大学の学生という誇りを持ち、何事にも自分の意見を持ち、積極的、建設的な行動の取れる成熟した社会人に成長することを願って、式辞と致します。

「多様性を理解できる若者へ」